うるわし通信

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091　奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL：http://lets.some.jp
E-mail：lets@some.jp

令和3年5月

新庁舎の建設が進んでいます

現庁舎は昭和42年に建設されて54年間、桜井市政の拠点として重要な役割を果たしてきましたが、老朽化と耐震性の不足に加え、バリアフリー性能やユニバーサルデザインへの対応など多くの課題が山積していました。その解決のため、現本庁舎西側の駐車場スペースに鉄筋コンクリート造り、屋上庭園を備えた地上4階建て塔屋1階（北東側の一部は2階建て）、回転機構付すべり支承を採用した免振構造、延べ床面積約7800平方メートルが建設中です。

地域交流センターイメージ図

新庁舎建設工事を行う第1期工事と、新庁舎建物完成後に現庁舎を解体して駐車場や地域交流広場を整備する第2期工事が計画されていて、現在は6月末の新庁舎竣工を目指し建設が進められています。

正面玄関には地域の総合的な活動交流拠点機能を備えた「地域交流センター」が設置され、市民の憩いの広場としてミニコンサートや市民ギャラリーが開催できるように、閉庁日の土日も開放できる設計になっているため、開庁後はNPO・ボランティア・地域住民等の積極的な利活用の場として期待されます。

新庁舎は行政・文化の拠点としての機能のほか、災害時の防災拠点になるなど市民生活の中心として存在するものとなり、地域の課題に向き合う施策を展開すると共に、これからのまちづくりを進める市民協働の開かれた場となることが求められていると考えます。本会も、それに向けて尽力していきます。

（うるわしの桜井をつくる会事務局）

～開所2年目を迎えた 駅前ひみっこぱーくの現状～

4月9日（金）に「通信」編集部は、まほろばセンター内のひみっこぱーくの杢（もく）佳和まほろばセンター所長(ミズノスポーツ)に、現状と取り組みについて下記の諸点を中心にインタビューをおこなった。

第1点目は、2019年５月にオープンして2年が経過し、この1年間はコロナ禍の拡大の中でどのような運営が行われてきたのか。そして現状はどうなのか。

初年度は、年間目標の4万人を大きく上回る6万人の利用者があったが、コロナ拡大の下、昨年3～5月の3か月は休館せざるを得なかった。その後徐々に利用者を拡大する方向で、6月1日からは桜井市民限定にして事業再開し、奈良県民に拡大してきている。しかし、利用者が安心して遊んでもらえるように、完全予約システム（スマホ予約）の下に参加を受付ている。また、利用定数（時間当たり180名）の上限50パーセントの入場制限から始め、現在は3/4で対応している。令和2年度の利用者数は夏休み期間の利用の持直しなどで、目標人員に近い数値になっている。

第2点目は、来所する子ども達に、どのような体験をさせてあげたいと思って居られるのか。

コロナの下で、子ども達も遊びが制限されている現状なので、ひみっこぱーく利用者には、思いっきり安全で安心して遊びが出来るように、様々な条件整備をすることが、必要と考え取り組んでいる。来所者（保護者を含め）には、アルコール消毒とマスク着用を徹底すると共に、器具・おもちゃの消毒を定期的（2時間毎）におこない、そのための除菌機も導入している。気軽に来られて安心して遊べること、リピーターを増やすことも大切と考えて、ポイントカード（5回で500円引き）を令和3年1月より始めている。また、イベント事業をおこなうことで、利用者の増加を働きかけている。取組みとして、誕生日会や絵本の読み聞かせなどを、平日に開催している。現在は月約3,000名の延べ利用者がある状況。

紫外線除菌機

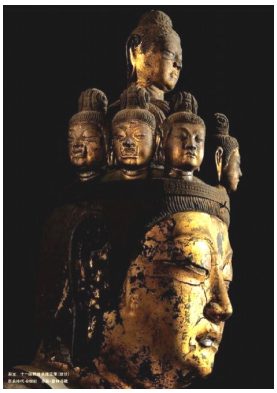
第3点目として、駅前施設であるまほろばセンターの業務受託者として、地域の活性化に向けての集客事業や活性化の取組みについて、現状や課題について。

まほろばセンターでは、各種文化講座の開催や貸室事業をおこなっているが、コロナの下影響を受けながらも例年の運営を進めている。高校生の自習室事業もテスト期には大幅に利用が増える。駅前活性化については、多くの自治体でも現状は厳しいものがあると認識しており、エルト桜井の1階部分のスーパーマーケットが、新たに今月4月中旬にオープンするので期待したい。本施設と地域経済とのつながりについては、ひみっこぱーく利用者が食事をするところが周辺に少ないので、郊外のお店に行ってしまう現状となっている。本施設利用者向けの周辺店舗での割引制度なども検討課題の１つではないだろうか。　　（うるわしの桜井をつくる会 楠木克弘）

麗しき観音の1300年　そして未来へ　～聖林寺～

「門前から北を望む眺めは又格別である。美しい三輪山の山稜、それに箸墓など古代大和の古墳が散在する盆地の東半分が絵巻物のように展がる」父・弘玄（こうげん）が平成4年発刊の『多武峰・聖林寺小史』の冒頭に記している。それから30年経った今、幹線道路などが出来たといえども、その眺望には何の影響も及ばない。

聖林寺（しょうりんじ）は藤原家の祖師鎌足（かまたり）を祭神とする談山神社（たんざんじんじゃ）（神仏分離以前は妙楽寺）の支院として和銅5年（712）に創建されたが、本堂は度重なる僧兵による戦火で失い江戸中期に再建されている。本尊は大きなお顔の子安延命地蔵（こやすえんめいじぞう）。江戸中期の僧 文春（もんしゅん） 和上が、自身の姉が出産で難儀したことを苦にし、女人泰産の願をかけた木彫りの仏を背負い、全国を行脚した。托鉢は実に4年7ヶ月におよび、集まった浄財で御影石の大石仏である安産・子育て・子授けの本尊を造像したのである。



現在　聖林寺の国宝十一面観音（以下、観音様）は、元は桜井市三輪（おおみわ）の大神神社（じんじゃ）の神宮寺大御輪寺（だいごりんじ）（現在は若宮社）の本尊であった。観音様を本尊に現在は法隆寺の大宝蔵院に安置の木造地蔵菩薩を脇侍とし、その他多くの仏と若宮が共に祀られていたが、幕末明治の大変革の最中に出された神仏判然令の通達を受けて、慶応４年(1868)5月に当寺にお遷りになった。

永く秘仏であった観音様は、当寺へも三輪の人々によって大八車で大切に運ばれたと伝わる。そののち明治20年（1887）にアメリカの哲学者フェノロサによって秘仏の禁を解かれるが、フェノロサは観音様を後世に継がれるよう、友人ビゲローと共に文化財保護施設の魁ともいえる工夫を成した可動式の厨子を寄進している。しかし、木製の厨子では火災の際に守り切れないため、昭和34（1959）年に我が国で初めての鉄筋コンクリート造りの収蔵庫が建設された。

それから60余年が経過した今、コンクリートの酸性化や鉄筋の劣化などを受け、改修工事の計画を進めている。工事の際の観音様は国宝指定のため国立の博物館預けとなるが、昨年、東京で行われる予定であった、東京オリンピック期間中に文化庁などが主催する日本博で東京国立博物館特別展開催に向け動きだしていた。しかし、パンデミックとなったコロナウイルス感染症の蔓延で、東京五輪と共に延期を余儀なくされた。また、改修工事には莫大な資金が必要であるため発願当初から御寄進を募ってきたが、総額1.5億円には足りていないのが現状である。去年の緊急事態宣言を受けてから後は拝観者が著しく減少している。しかし、コロナ禍を理由に立ち止まっていても何も進まない。江戸時代に本尊を造像した文春は4年7か月の月日をかけられた。延期になった期間を、勧進のために与えられた期間と捉え、ネット社会でもある現在、様々な方法でご寄進の募集をしている。観音様を愛する多くの方に、1300年の時を経た今もなお、我々の心のよりどころとなる観音様と仏縁を結んでいただければ幸いです。

（聖林寺住職　倉本明佳（くらもと みょうか））

＊「聖林寺クラウドファンディング第2弾」
ご支援募集期間：2021年6月18日（木）～9月16日（木）
HPはこちら https://readyfor.jp/projects/shorinji2021

＊十一面観音収蔵庫改修事業計画と両輪で進む
東京国立博物館特別展「国宝聖林寺十一面観音　三輪山信仰のみほとけ」6月22日より開催
HPはこちら https://tsumugu.yomiuri.co.jp/shorinji2020/

うるわしの桜井をつくる会令和3年度 総会延期について

コロナウイルス感染症が大阪、兵庫で爆発的に増え、第4波危機が迫っています。奈良県も過去最大の感染者数が続き、人口比でみても大阪、兵庫より多いといわれています。
このような状況下で、6月中に開催してきた総会の開催は無理と考え、会長と相談の上次のような形で取り組むことになりました。
前回に続いて書面会議も考えられますが、お盆の頃までに高齢者のワクチン接種がひととおり終われば、8月下旬を目途に参加人数が少なくても、リアルで開催したいと思います。
会員の皆様方のご理解、ご協力よろしくお願いいたします。（うるわしの桜井をつくる会事務局）

巡回展 「先住民族アイヌは、いま」 桜井展を開催

●奈良県内で本年4月から10月にかけて「先住民族アイヌは、いま」の巡回展がおこなわれます。主催は「先住民族アイヌのいまを考える会」で、県内の人権を考える研究機関や運動団体で構成されており、代表は、本会の会員でもある浅川肇氏が務めておられます。
この間、国際的な先住民族の諸権利を擁護する機運の高まりと、関係者の尽力により2019年に「アイヌ施策推進法」が制定されました。
県内においては、平素アイヌの人々との交流が希薄なこともあり、アイヌの人権に関する基本認識が充分ではなく、この問題を共に学ぶ機会として、将来にわたり多文化共生の一助となるよう、この巡回展の開催となったと、浅川氏は、述べておられます。

奈良県内会場と開催時間

月日	開催時間	市町村	会場
4月24日(土)～25日(日)	10:00～16:00	奈良市	奈良県人権センター
5月29日(土)～30日(日)	**10:00～16:00**	**桜井市**	**桜井市役所大会議室**
6月15日(火)～19日(土)	10:00～16:00	河合町	河合町中央公民館
6月20日(日)	10:00～15:00		
7月26日(月)～31日(土)	10:00～16:00	三宅町	あざさ苑会議室
8月14日(土)	10:00～16:00	大和高田市	大和高田市立図書館
8月15日(日)	10:00～15:00		
9月14日(火)～21日(火)	10:00～16:00	宇陀市	宇陀市人権交流センター
10月2日(土)	10:00～16:00	大淀町	大淀町文化会館
10月5日(火)～30日(土)	10:00～17:00	御所市	水平社博物館

＊5月29日(土)13時よりミニ講演会「アイヌモシリから北海道へ」も同会場で行われます。
巡回展のHPはこちら。https://ainu.amebaownd.com/

【編集後記】 今春は例年より桜の開花が早く、コロナの影響かテレビの桜見中継が多かった。「通信」が配布される頃には“山笑う”新緑の風景が広がっているだろうが、コロナの収束は見えず、ワクチン接種もこのペースであれば、組織・団体・個人等々の活動も本格始動とはなりがたい。県内・市内での感染者も増加の一途であり、お互いに今は忍耐の時である。他方、国内外での人権課題が重視され、どのような立ち位置（スタンス）を取るのかが注視される時である。 ＜編集子 K＞

うるわし通信発行人
髙瀬 安男
TEL:090-1678-9157